

会期 2026年4月25日(土)
~8月18日(火)

深沢紅子野の花美術館開館30周年記念展

深沢紅子と出会いの偉大なる人々

花と紅子をとりにまく女性たち



深沢紅子 スカーフの女 1941年

中津川のせせらぎセッション
初夏の風に音楽をのせて
VARIETY SHIRT LIVES
by THE NAKATU River

〈日 時〉2026年5月30日(土)
13:30開場 14:00開演
〈出 演〉ヴァイオリン：山口あうい
ピアノ：長谷川恭一
〈会 場〉深沢紅子野の花美術館
〈参加費〉入館料+500円
〈要申込〉4月28日10:00~ ☎019-625-6541

深沢紅子野の花美術館

〒020-0885 岩手県盛岡市紺屋町4-8 TEL: 019-625-6541 FAX: 019-625-6533

入館料 / 大人 500円 (団体20名以上400円) / 高・大生 300円 / 小・中生 200円
開館 / 10:00 ~ 17:00 (最終日は15:00まで) 休館日 / 月曜日 (祝祭日の場合はその翌日)
■後援: 盛岡市 ■協力: 深沢家



野の花美術館を応援しております

深沢紅子野の花美術館開館30周年記念展

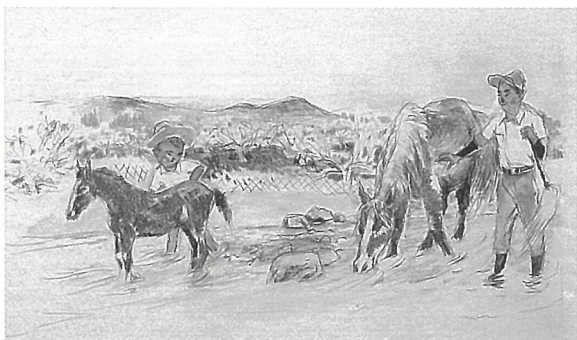
深沢紅子と 出会いの偉大なる人々

～花と紅子をとりまく女性たち～

2026年4月25日(土)～8月18日(火)

AM10:00～PM5:00 (最終日は～PM3:00)

深沢紅子 ひるかお 水彩



深沢省三 こうまとじゅんたん 1974年

当深沢紅子野の花美術館は、画家・深沢紅子（1903-1993）の生まれ育った原風景の地に1996年開館し、この秋30周年を迎えます。開館にあたっては、盛岡市民を中心とした全国の紅子を敬愛する人々の市民運動が大きき力となりました。

紅子画伯の遺徳を未来へ繋げようと願う多くの人々の誠意が結集し、その思いがかたちとなった小さな美術館です。

明治36年(1903)盛岡に生まれた深沢紅子(旧姓:四戸)は、幼い頃から親しんだ街の中心を流れる清流・中津川の川原に咲く花や、道端に咲く身近な花々を愛し、生涯の絵のモチーフとしました。そして、野の花の画家として独自の画境を極め、時代の草分けとなり活躍しました。

5人の子供たちの子育てに奮闘しながら、筆を休めることなく美を追求し続けた紅子。終戦後の荒廃した時代には、文化による復興を願って夫であり画家の深沢省三と協力して美術指導に奔走、後進の育成に尽力しました。晩年の不慮のアトリエ火災にも屈せず、いつもたおやかに、精力的に時代を駆け抜けた生き方は、今を生きる私たちへの力強いエールとなっています。

この度の展覧会では、紅子描く花の作品や、紅子と親交を持ち、様々な分野で同じように懸命に真摯に生きた女性たちについてもふれながら、30年の歩みを作品とともに祝いたいと考えます。

ワークショップ

大好きなひとに贈る花を描いてみよう

日時:2026年6月14日(日) ①10:00～11:30 ②14:00～15:30

会場:深沢紅子野の花美術館1階

対象:主に小学生 定員各10名 参加費500円

要申込:5月1日 10:00～ ☎019-625-6541

花の美しい季節、深沢紅子さんの気持ちになって花を描いてみましょう。6月第2日曜日は、キリスト教の行事“花の日”でもあります。じっくりと観察して描いた小さな絵は、周りの大好きなひとへ贈るグリーティングカードにします。

岩手の美術の魅力発信事業

教育旅行やその他学外研修利用の皆さまへ

盛岡の画家を学ぼう

—見学申込み受付中—

岩手を代表する画家・深沢紅子の美術館。幼い頃に出会った身近な野の花を愛し、生涯、野の花をテーマに描き続けた画家の絵画鑑賞と生涯を学ぶプログラムです。事前のお申込みで、展覧会の解説をいたしております。

【期間】 通年(月曜・臨時休館除く)
【人数】 小グループ(5～6名程度)
【時間】 約30分 ※感染症対策の目安時間
【アクセス】
JR盛岡駅から「でんでんむし号」
右廻りで10分。
上の橋下車、対岸中津川沿いに
徒歩2分。